

2005年度 中間決算説明会

2005年11月14日

目次

- I . 2005年度 中間決算実績
- II . 2005年度 通期業績見通し

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

I . 2005年度 中間決算実績

1. 決算概況

<連結決算>

(単位:億円)

	04下期	05上期	増減
売上高	6,630	7,305	675
営業利益	1,045	1,448	402
経常利益	1,016	1,318	302
特別損益	△ 38	△ 13	24
法人税等・少数損益	△ 320	△ 383	△ 63
当期純利益	657	920	263
利益剰余金残高	1,158	1,832	674
総資産残高	19,231	20,005	774

< 単独決算 >

(単位: 億円)

	04下期	05上期	増減
売上高	4,155	4,500	344
営業利益	711	1,042	331
経常利益	634	902	267
特別損益	2	△ 241	△ 243
法人税等	△ 204	△ 230	△ 25
当期純利益	432	430	△ 1
利益剰余金残高	1,313	1,502	189
総資産残高	14,578	15,259	680

2. 売上高・営業利益

<連結>

(単位:億円)

	04下期		05上期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼	5,782	1,052	6,606	1,443	824	391
エンジニアリング	351	△ 26	192	△ 22	△ 159	3
エレクトロニクス	256	3	302	14	45	10
その他	239	19	204	15	△ 35	△ 4
(消去)		(△3)		(△3)		(△0)
合計	6,630	1,045	7,305	1,448	675	402

増減の要因 ←

	要因
鉄鋼	原料価格の大幅な上昇と需給ギャップの二極化の中、高級品比率が高い当社の品種構成の下、鋼材価格の改善、コスト削減等により増収増益。
エンジニアリング	公共投資の減少等により、減収。
エレクトロニクス	半導体需要好調により増収、増益。

＜当社、小倉、直江津、住金鋼鉄和歌山 合計＞

	04下期	05上期	増減
為替レート	円/ドル 105	109	4円円安
販売数量	万トン 589	600	11
鋼材平均 単価	千円/T 77.4	88.5	11.1
	価格・構成差	9.6	
	為替差	1.5	←
	計		

＜単独＞

(単位:億円)

	04下期	05上期	増減
	売上高	売上高	売上高
鉄鋼	3,811	4,314	502
エンジニアリング*	343	185	△ 157
エレクトロニクス	—	—	—
合計	4,155	4,500	344

	04下期	05上期	増減
為替レート	円/ドル 105	109	4円円安
販売数量	万トン 468	451	△ 17
鋼材平均 単価	千円/T 81.4	95.7	14.3
	価格・構成差	12.8	
	為替差	1.5	←
	計		

3. 連結経常利益増減

04/上→05/上 602億円好転 (716億円→1,318億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	80	原材料価格他	△ 790
販売構成・価格他	1,337	為替差	△ 25
合計	1,417		△ 815

04/下→05/上 302億円好転 (1,016億円→1,318億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	65	原材料価格他	△ 590
販売構成・価格他	837	為替差	△ 10
合計	902		△ 600

4. 特別損益

<連結>

(単位:億円)

	04下期	05上期
投資有価証券売却益	259	68
固定資産売却益	11	
その他	8	
特別利益計	279	68
減損損失		△ 31
事業再編損	△ 68	△ 50
退職給付引当金繰入額	△ 32	
固定資産売却却損	△ 168	
災害損失	△ 34	
その他	△ 13	
特別損失計	△ 318	△ 82
特別損益計	△ 38	△ 13

5. キャッシュフロー

<連結>

	04下期	05上期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	1,470	1,502	32
投資活動によるキャッシュフロー	31	△ 502	△ 534
財務活動によるキャッシュフロー	△ 1,555	△ 1,208	347
現金及び現金同等物の期末残高	424	219	△ 205

6. 連結剰余金

(単位:億円)

	04下期	05上期	増減
資本剰余金期首残高	618	618	0
自己株式処分差益	0	—	△0
資本剰余金期末残高	618	618	—
利益剰余金期首残高	499	1,158	659
当期純利益	657	920	263
配当金	—	△ 240	△ 240
役員賞与	—	△ 1	△ 1
連結範囲変動等による増減	2	△ 5	△ 7
利益剰余金期末残高	1,158	1,832	674

補足数値

(1) 金融収支

<連結>	(単位:億円)	
	04下期	05上期
受取利息・受取配当	16	25
支払利息	△ 81	△ 64
金融収支	△ 65	△ 39

<単独>	(単位:億円)	
	04下期	05上期
受取利息・受取配当	18	40
支払利息	△ 52	△ 44
金融収支	△ 33	△ 4

(2) 設備投資・減価償却費(有形固定資産)

<連結>

(検収ベース、億円)

	04年度	05年度		計
		上期	下期計画	
設備投資 A	556	379	420	800
鉄鋼事業				
非鉄鋼事業	47	32	50	80
合計	603	411	470	880
減価償却費 B	792	365	390	750
B-A	189	△ 46	△ 80	△ 130

<単独>

(検収ベース、億円)

	04年度	05年度		計
		上期	下期計画	
設備投資 A	366	271	290	560
減価償却費 B	480	212	230	440
B-A	114	△ 59	△ 60	△ 120

(3) 鉄鋼事業カンパニー別売上

<連結>

(単位: 億円)

カンパニー	04下期	05上期	増減
鋼板・建材	3,054	3,375	320
鋼管	1,509	1,876	366
交通産機品	406	445	38

<単独>

(単位: 万トン、億円)

カンパニー	04下期		05上期		増減	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
鋼板・建材	370	2,396	354	2,580	△ 15	183
鋼管	88	1,071	85	1,356	△ 3	285
交通産機品	10	343	11	376	1	33

(4) 鉄鋼事業国内・輸出別売上

<単独>

(単位:万トﾝ、億円)

	05上期	
	数量	金額
国内	284	2,463
輸出	167	1,851
合計	451	4,314

<単独>

輸出向先別比率

(単位:%、金額ベース)

	05上期
アジア	57
北米	12
中近東	14
欧州	12
他	5

Ⅱ. 2005年度 通期業績見通し

1. 通期業績見通し

1-(1) 05年度通期業績見通しの前提

		05年度		
		上期実績	下期見通し	通期見通し
為替レート	円／ドル	109	110	110
全国粗鋼	百万トン	56.8	55.8	113程度
当社グループ粗鋼(*)	万トン	670	660程度	1,330程度

(*)小倉、直江津、住金鋼鉄和歌山を含む

為替バランス (単位: 億ドル／年)
(ドル受取超過)

単独	12
グループ	1
連結	13

1-(2) 業績見通し概要

<連結>

(単位:億円)

			05年度見通し	上→下増減
	上期実績	下期見通し		
売上高	7,305	7,800程度	15,100程度	500程度
営業利益	1,448	1,300程度	2,750程度	△150程度
経常利益	1,318	1,200程度	2,500程度	△120程度
特別損益	△ 13	200程度	200程度	210程度
法人税等・少数損益	△ 383	△350程度	△730程度	30程度
当期純利益	920	1,050程度	1,970程度	130程度

<単独>

(単位:億円)

			05年度見通し	上→下増減
	上期実績	下期見通し		
売上高	4,500	4,750程度	9,250程度	250程度
営業利益	1,042	950程度	2,000程度	△90程度
経常利益	902	850程度	1,750程度	△50程度
特別損益	△ 241	120程度	△120程度	360程度
法人税等	△ 230	△290程度	△520程度	△60程度
当期純利益	430	680程度	1,110程度	250程度

<連結>

(単位:億円)

	04年度実績		05年度見通し	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼	10,857	1,837	13,750程度	2,735程度
エンジニアリング	571	△ 48	350程度	△50程度
エレクトロニクス	490	12	600程度	35程度
その他	448	27	400程度	30程度
合計	12,369	1,828	15,100程度	2,750程度

対前期	
売上高	営業利益
2,890程度	900程度
△220程度	ほぼ横這い
110程度	20程度
△50程度	ほぼ横這い
2,730程度	920程度

<連結>

(単位:億円)

	05上期実績		05下期見通し	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼	6,606	1,443	7,140程度	1,290程度
エンジニアリング	192	△ 22	160程度	△30程度
エレクトロニクス	302	14	300程度	20程度
その他	204	12	200程度	20程度
合計	7,305	1,448	7,800程度	1,300程度

対前期	
売上高	営業利益
530程度	△150程度
△30程度	△10程度
ほぼ横這い	10程度
ほぼ横這い	10程度
500程度	△150程度

1-(4) 連結経常利益増減

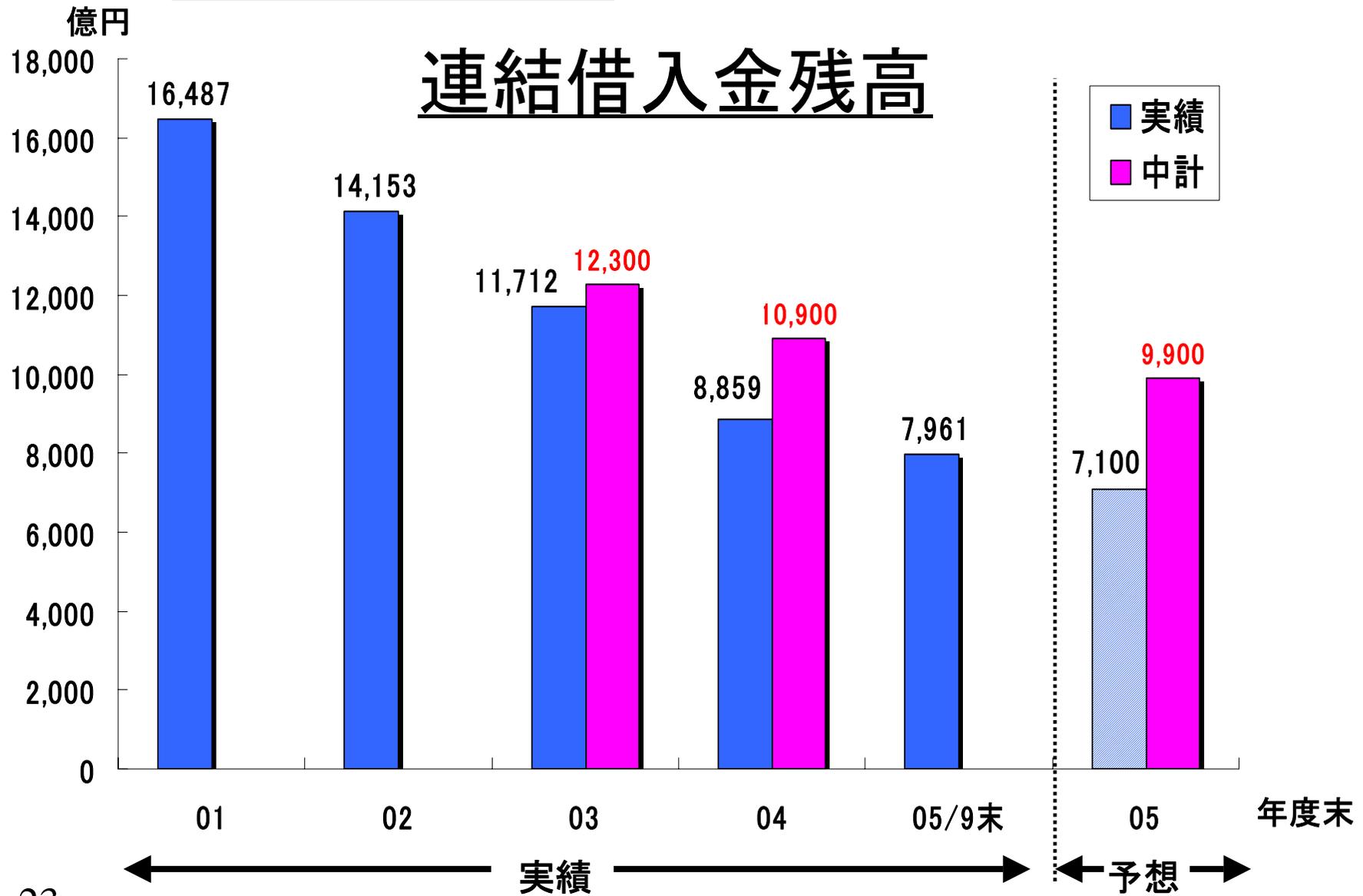
04年度→05年度見通し 768億円程度好転 (1,732億円→2,500億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	160	原材料価格他	△ 1,350
販売構成・価格他	1,958	為替差	0
合計	2,118	合計	△ 1,350

05／上→05／下見通し 118億円程度悪化 (1,318億円→1,200億円)

損益好転要因		損益悪化要因	
	億円		億円
コスト改善	15	原材料価格他	△ 50
販売構成・価格他	117	評価損益	△ 200
合計	132	合計	△ 250

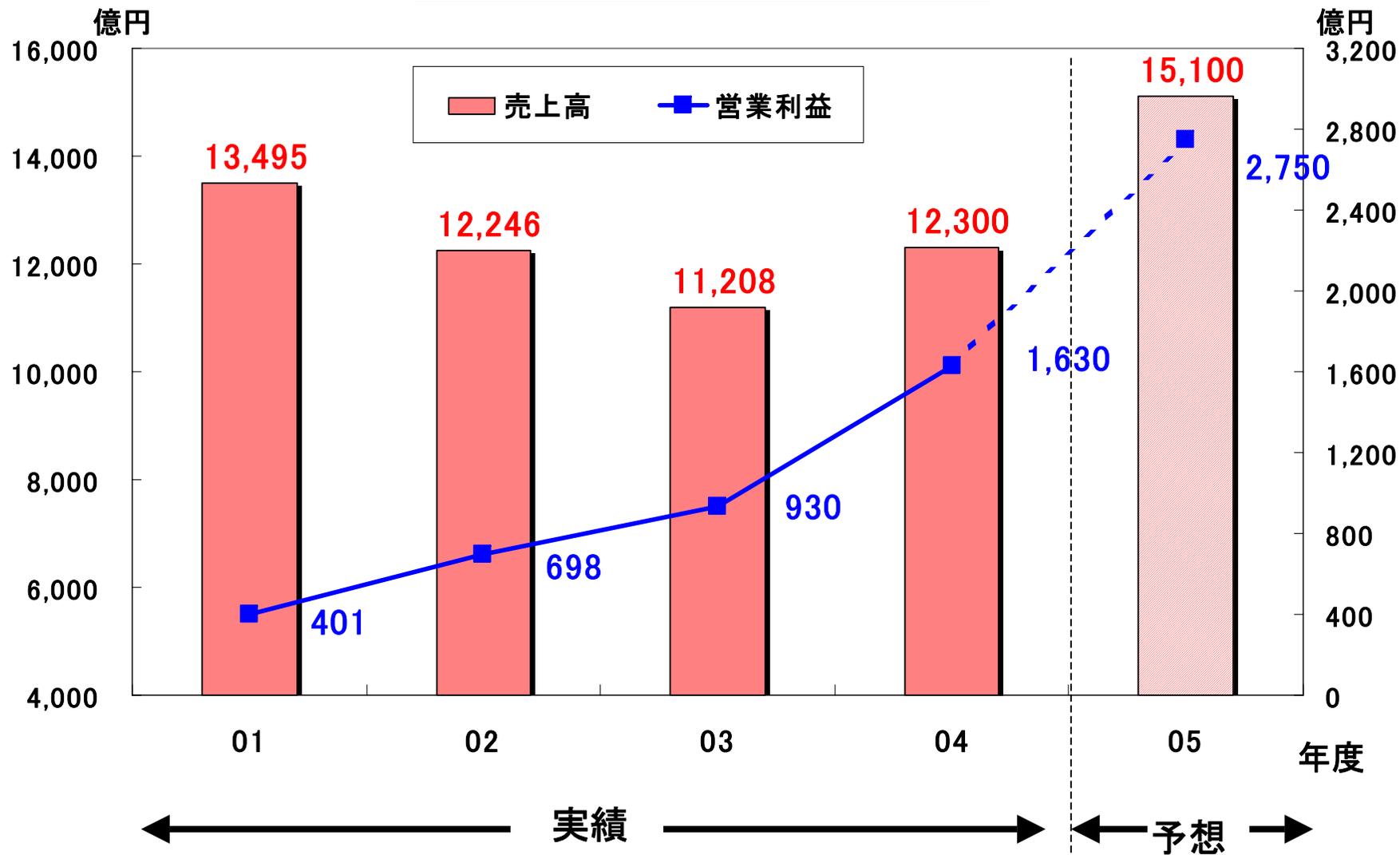
財務体質の改善



売上高・営業利益

売上高

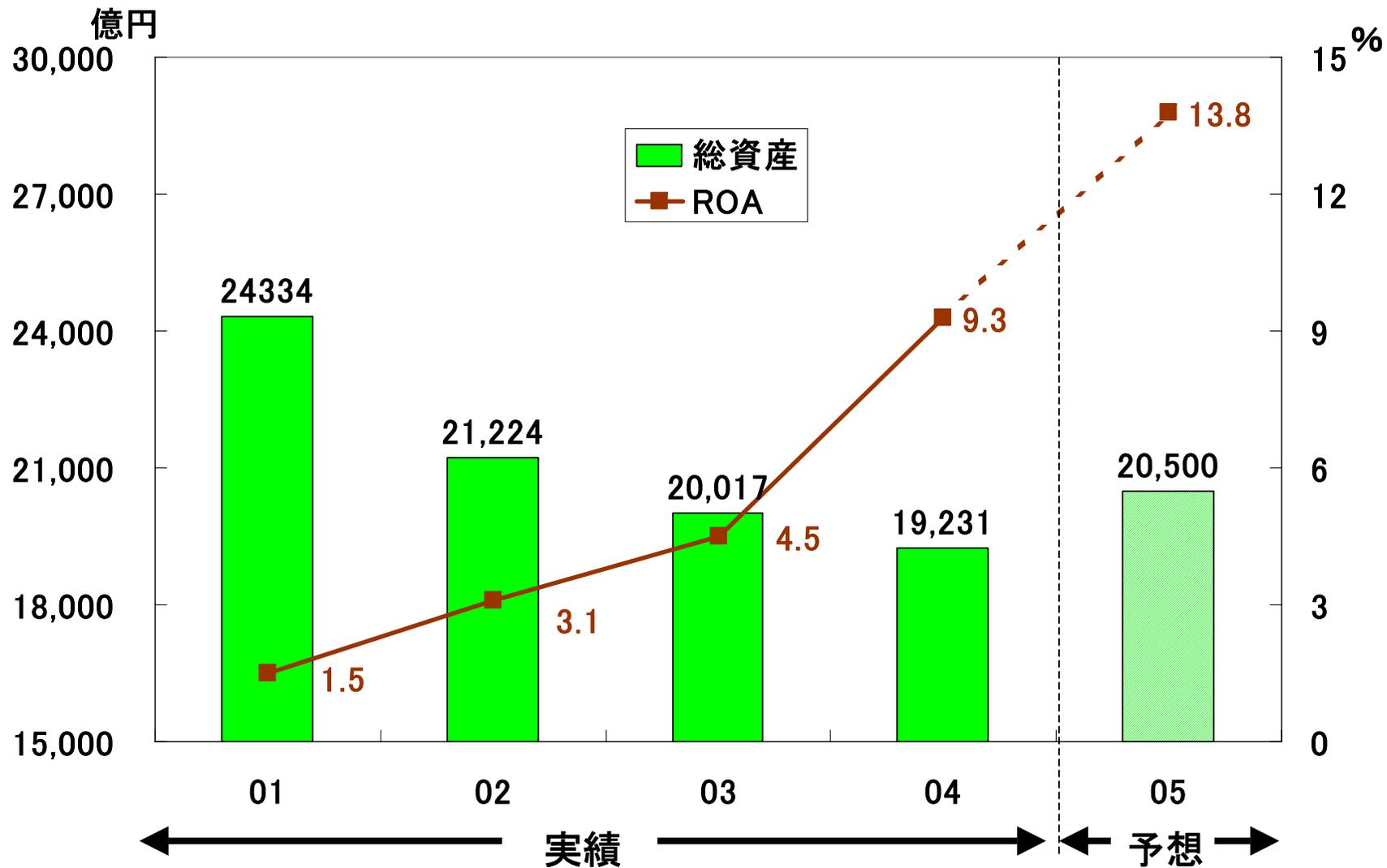
営業利益



総資産・ROA

総資産

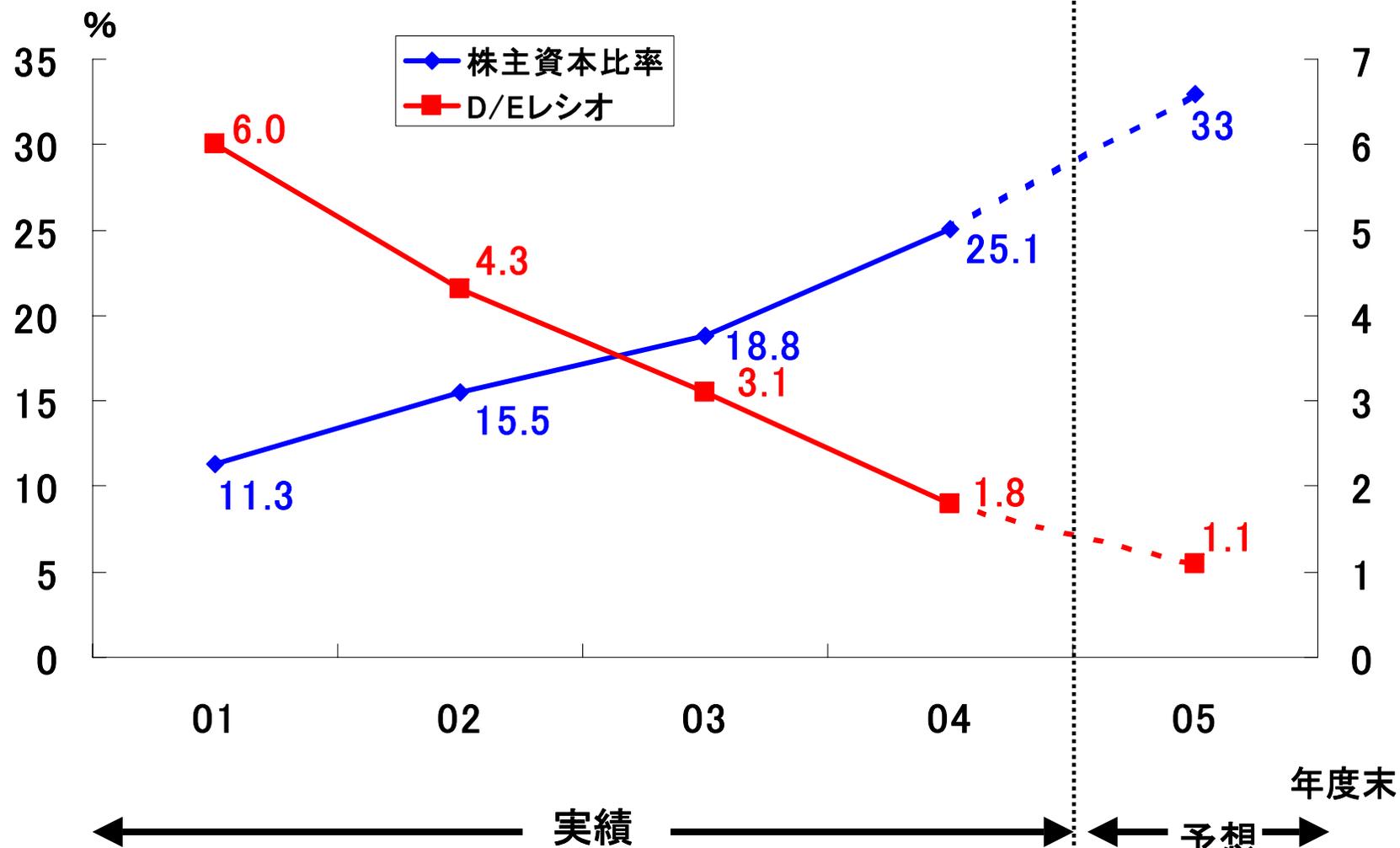
ROA



株主資本比率・D/Eレシオ(連結)

株主資本比率

D/Eレシオ



2. SUMCO上場について

シリコンウエーハ事業(SUMCO)は
05年11月17日、東証に上場

当社持株比率:50% → 31.8%
(12.21百万株売出し、
オーバーアロットメントによる売出し分2.19百万株を除く)

SUMCOは新株発行による562億円を300mmウエーハ
生産能力増強のための設備投資資金として使用

- ・九州事業所伊万里工場への一極集中投資により
競争力優位を強化
- ・300mmビジネスで業界No.1を目指す

SUMCO 上場の当社05年度通期業績への影響

投資有価証券売却益

(連結) 約370億円

(単独) 約190億円

(オーバーアロットメントによる売出し分2.19百万株を除く)

3. 鋼材需給ギャップの二極化の中で

エネルギー・自動車分野での
強みをより強く

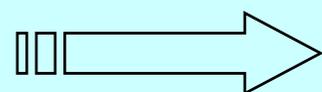
当社の目指すもの

「普通の会社」から「素晴らしい会社」へ

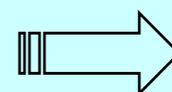
before

after

future



普通の会社



素晴らしい会社

強い所をより強く

ダウンサイドリスクに対する備え

当社が進めてきた構造改革

(薄板生産体制の変更)

薄板量製品の鹿島集約

- ・鹿島 新第1高炉の稼動開始 (04年9月)
- ・和歌山 熱延ミルの休止、鹿島への集中 (05年3月)

(和歌山 上工程の分社) (03年11月)

(ステンレス事業の新日鐵との統合) (03年10月)

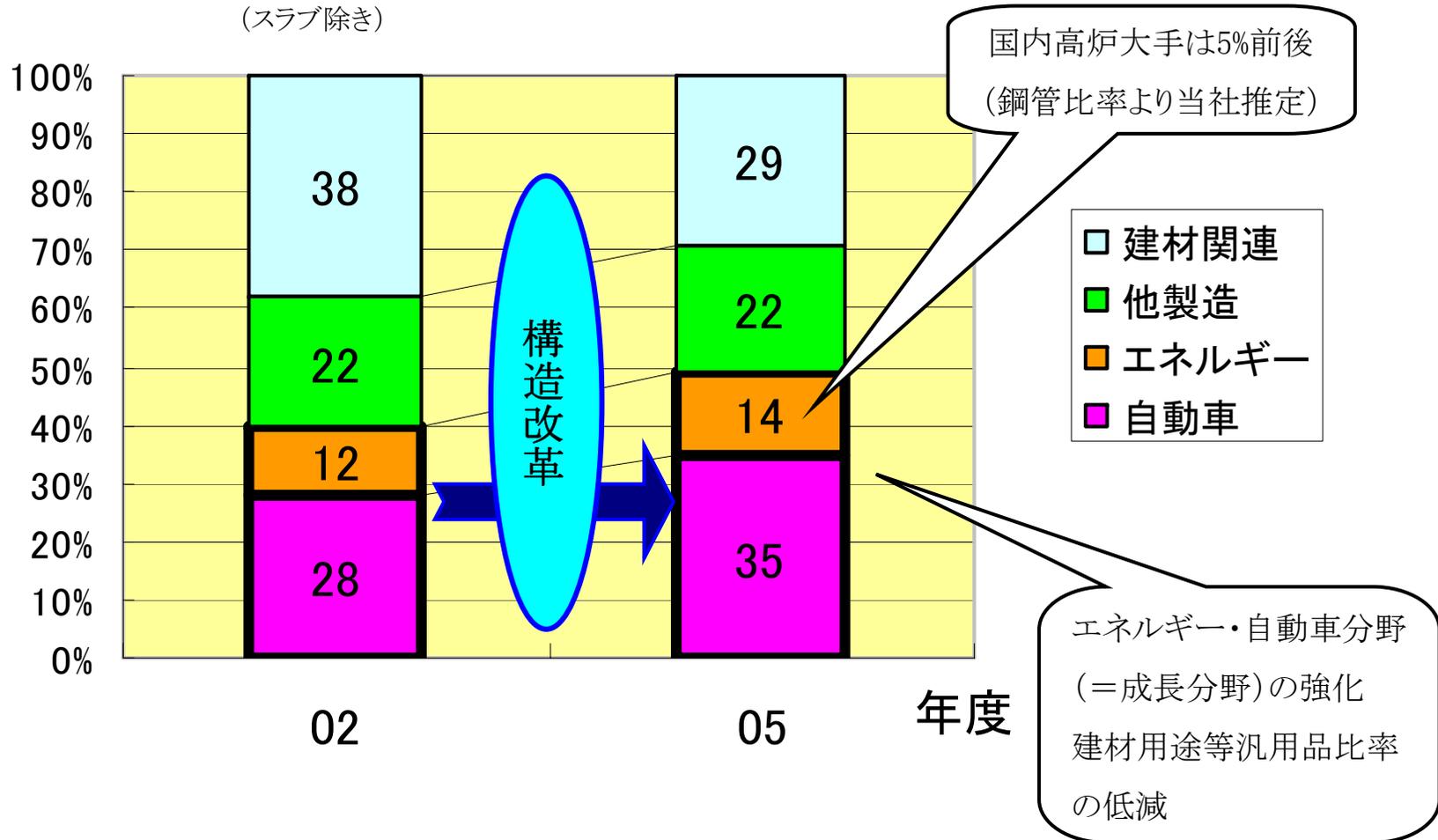
(CSCへのスラブ供給180万トン/年) (05年4月)

(新日鐵・神戸製鋼との3社連携の深化) (05年3月)
和歌山製鉄所上工程設備の共同利用他

当社鋼材販売の構成変化

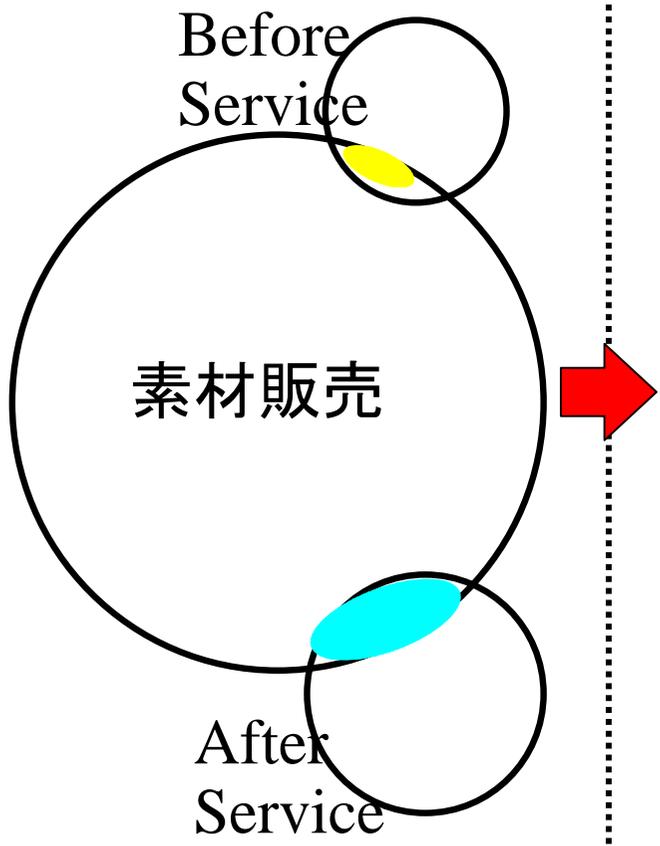
数量構成比

(スラブ除き)

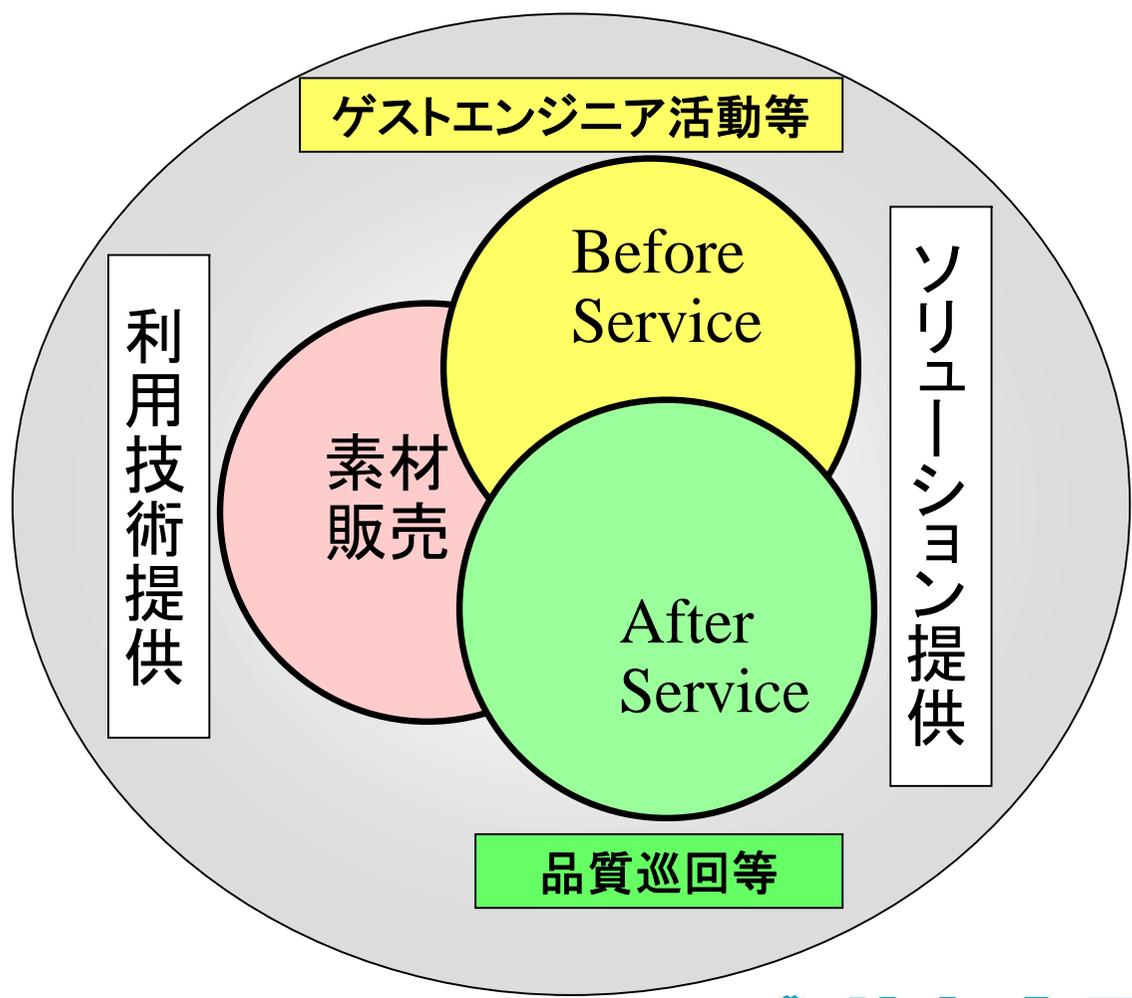


当社の目指すビジネス

従来の鉄鋼ビジネス



当社の目指す鉄鋼ビジネス



成長分野

エネルギー

- シームレスパイプ
- 厚板
- 大径鋼管

自動車

- 薄板
- 鋼管
- 特殊鋼
- クランクシャフト
- 棒鋼/線材

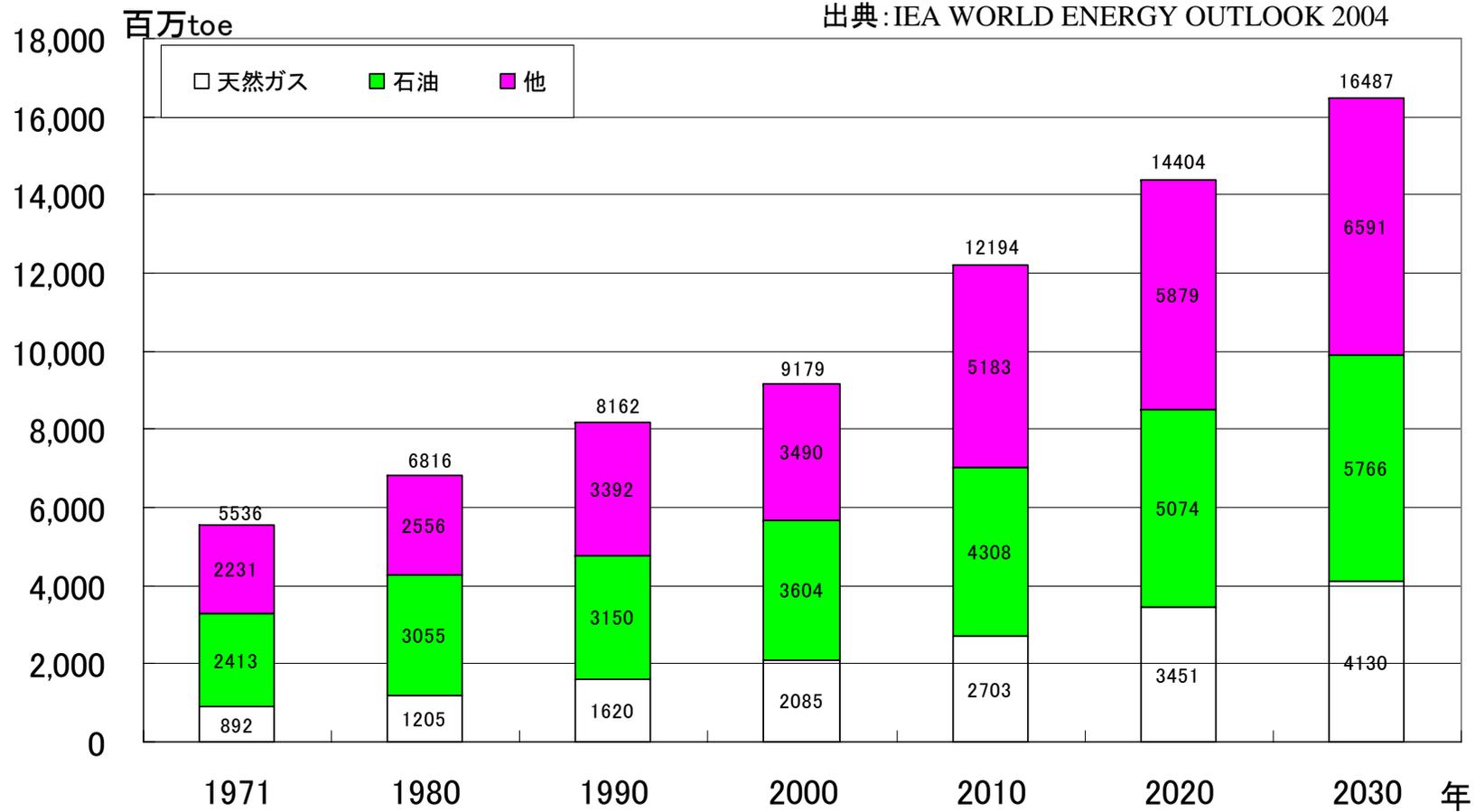
高級品の安定供給

顧客評価No.1

汎用品マーケット変動の影響を受けにくく、ダウンサイドリスクに強い体制を構築

エネルギー需要見通し

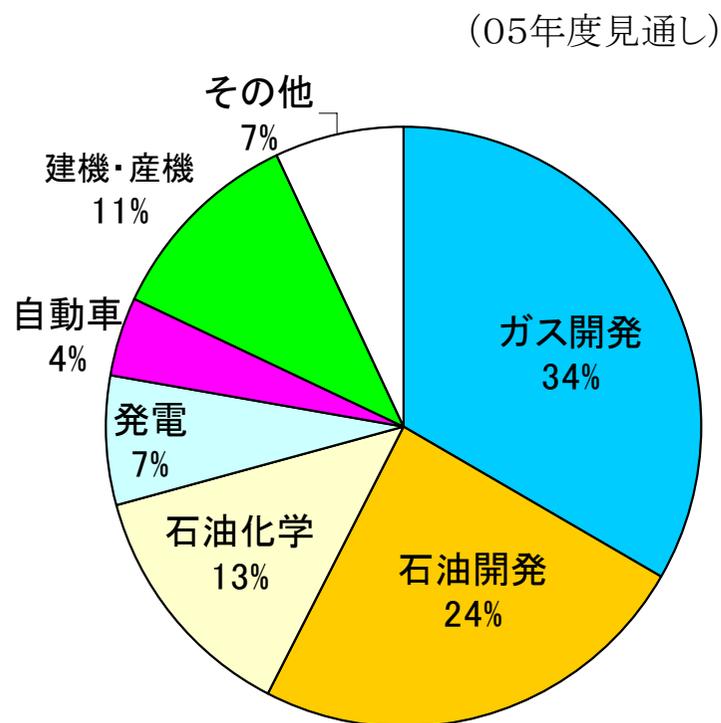
出典: IEA WORLD ENERGY OUTLOOK 2004



エネルギー分野

シームレスパイプ

当社シームレスパイプの分野別構成(重量ベース)

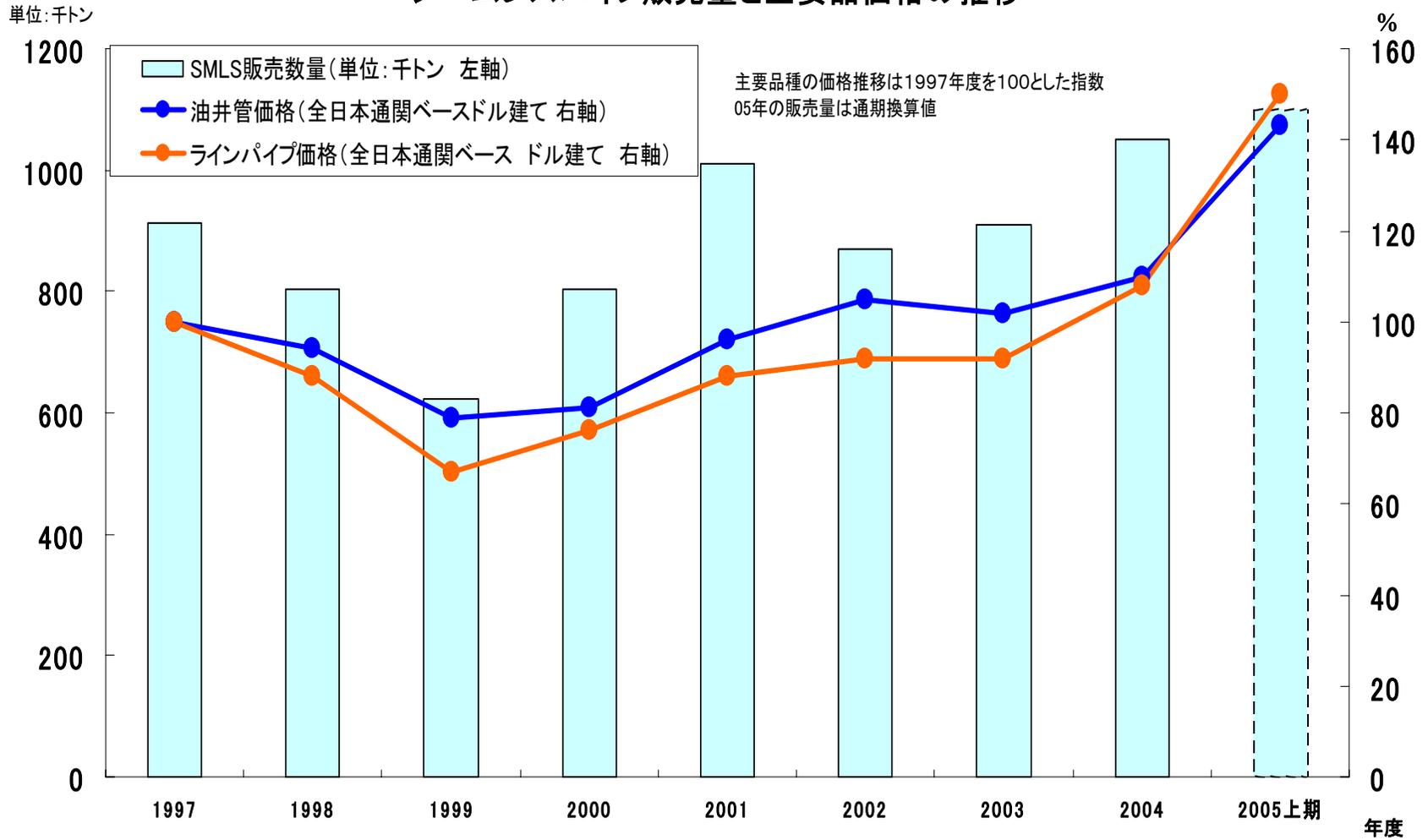


他社の追随を許さない
高付加価値製品群

採掘、精製、輸送など
に関わる世界で
唯一の総合サプライヤー

シームレスパイプ

シームレスパイプ販売量と主要品価格の推移



当社シームレスパイプの強味

研究
開発
力

顧客と一体となった開発体制

BP等メジャーオイルとの共同研究
による製品開発

製
造
技
術
力

和歌山 上工程と中径ミル

全量溶銑脱硫・脱燐・脱ガス、世界最速吹錬の
製鋼工場、当社独自の高交叉角ピアサー

世界一の材質ラインアップ

超過酷な掘削環境に対応する油井管(スーパーハ
イアロイまでフルラインアップの材質対応)

厚板

高水準の需要が続く造船メーカー向け安定供給に加え、エネルギー分野向けに高付加価値品を供給

鹿島 1ミルで高操業度を維持

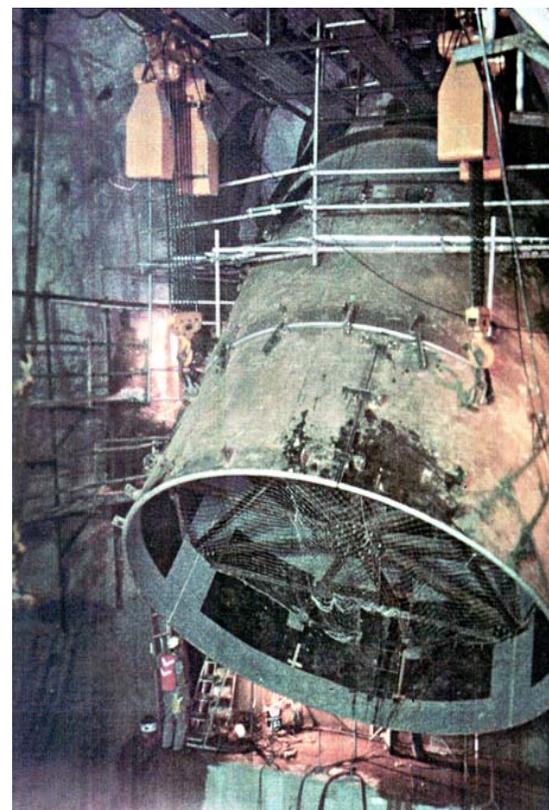
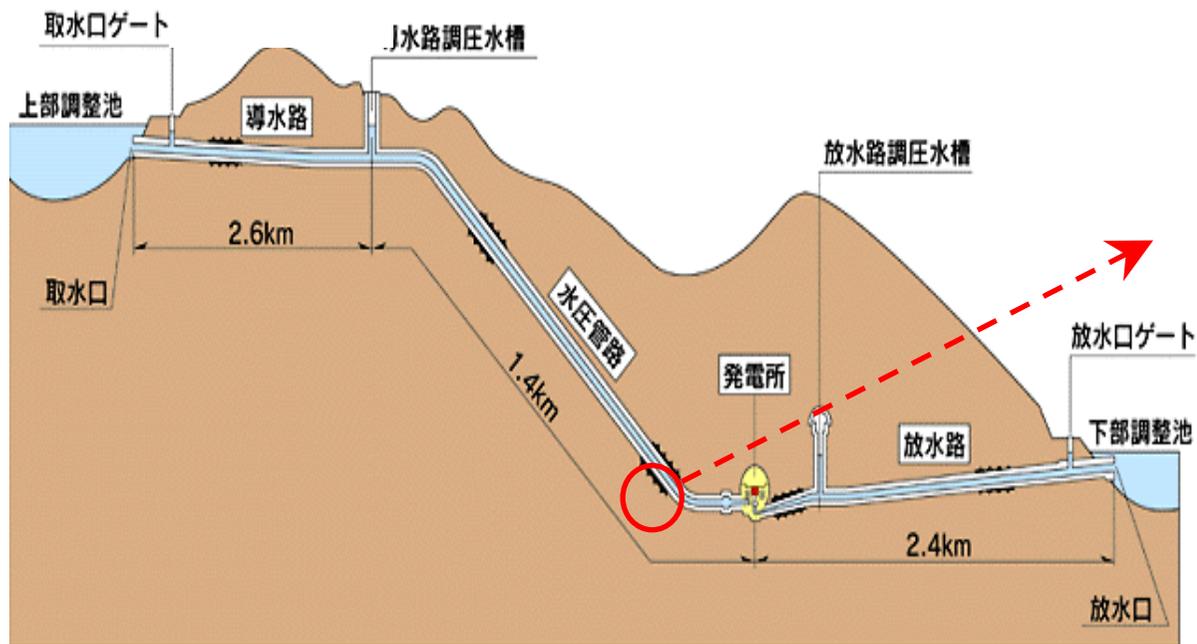
水圧鉄管用厚板

当社は大型水力発電所の
水圧鉄管（ペンストック）用高張力厚板
では世界で最も経験豊かな供給メーカー

水圧鉄管の用途

厚板

水路断面図



建設中の水圧鉄管

大径溶接鋼管

確固たる安全性が求められる天然ガス
輸送（100～150気圧の高圧）向けに顧客
からの高い信頼

低温靱性

耐腐食性

溶接性

強度

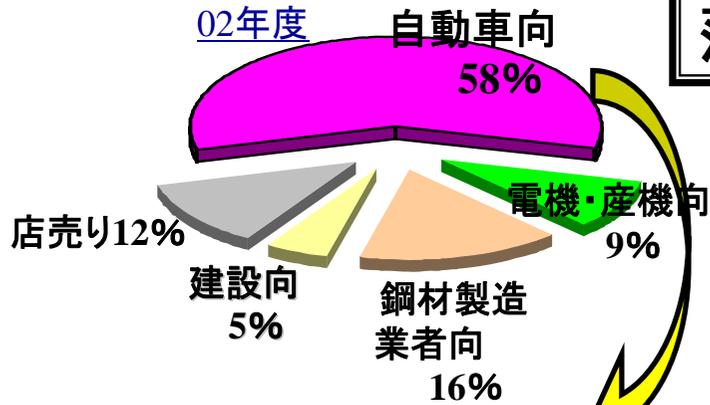
寸法精度



自動車分野

薄板

薄板分野別販売構成の推移

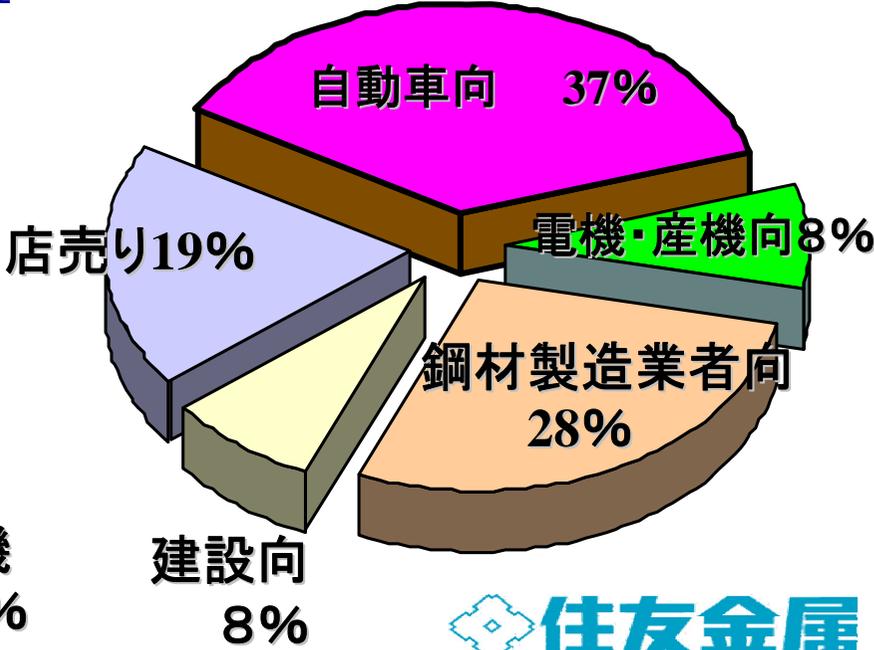
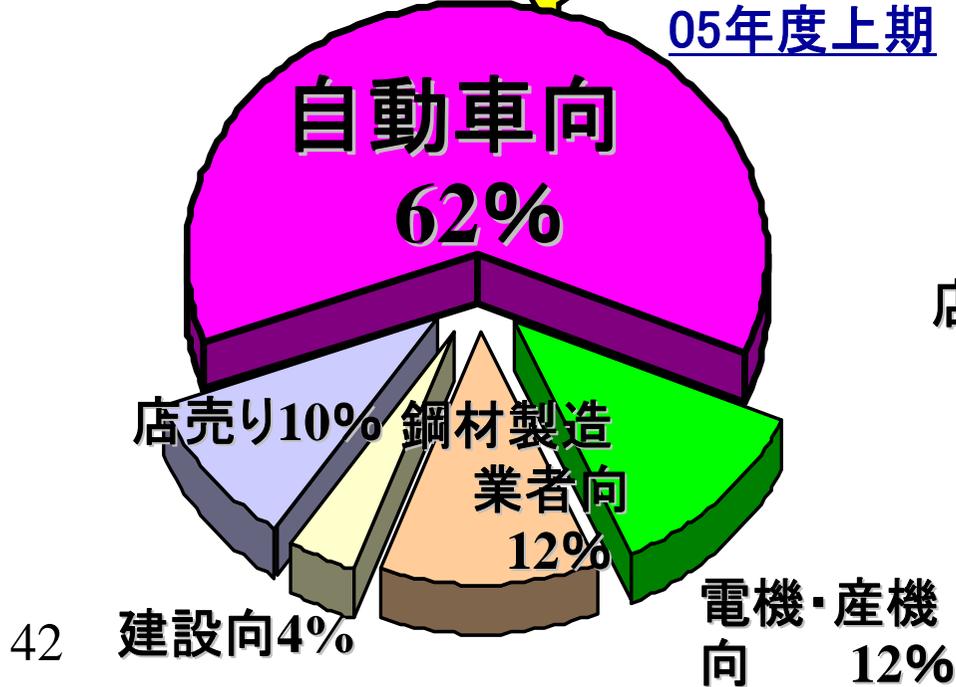


当社薄板国内

全国薄板国内

出所:04年度鉄連普通鋼用途別受注統計

05年度上期



自動車を取り巻く環境

薄板

車と環境・燃費

- ・排出ガス基準
- ・燃費効率
- ・騒音基準
- ・リサイクル
- ・クリーンエネルギー

高強度鋼板による
車体軽量化への貢献

車と世界

- ・海外生産
- ・世界販売
- ・業務提携

車と安全

- ・衝突性能向上の技術取組み
(車両の安全性向上技術)
- ・歩行者保護の技術取組み
- ・保険保障、リペアビリティ向上

軽衝突性能の向上形状開発
「クラッシュBOX」(衝突EAの吸収)

新高強度部材製造方法の開発「ホットプレス」
・側突による車体変形の抑止(センターピラー)
・2004年『プリウス』にてトヨタ殿より技術開発賞受賞

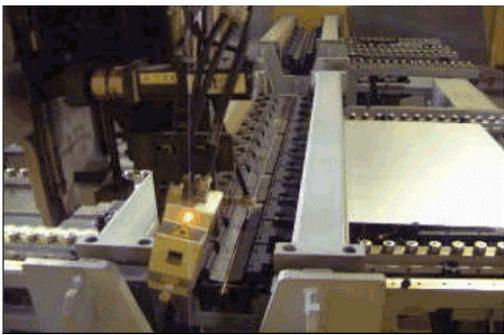
世界をリードする薄板利用技術の提供

薄板

●日本初
熱間プレス



●材料～溶接技術～設備販売
3点セット対応可能は当社のみ
テーラードブランク



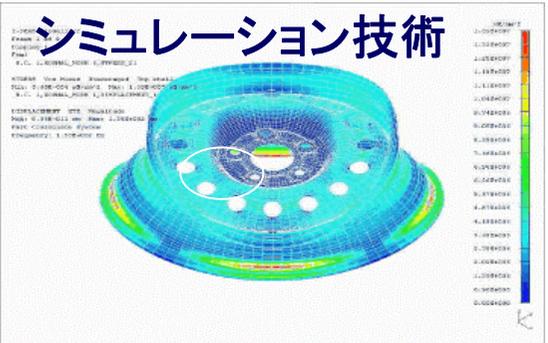
●国内実用化実績No.1
ハイドロフォーム



●国内最速・最大の
落錘試験機



鉄道台車設計 高炉/CC
↓ ↓
●世界最先端の
自社開発モデル

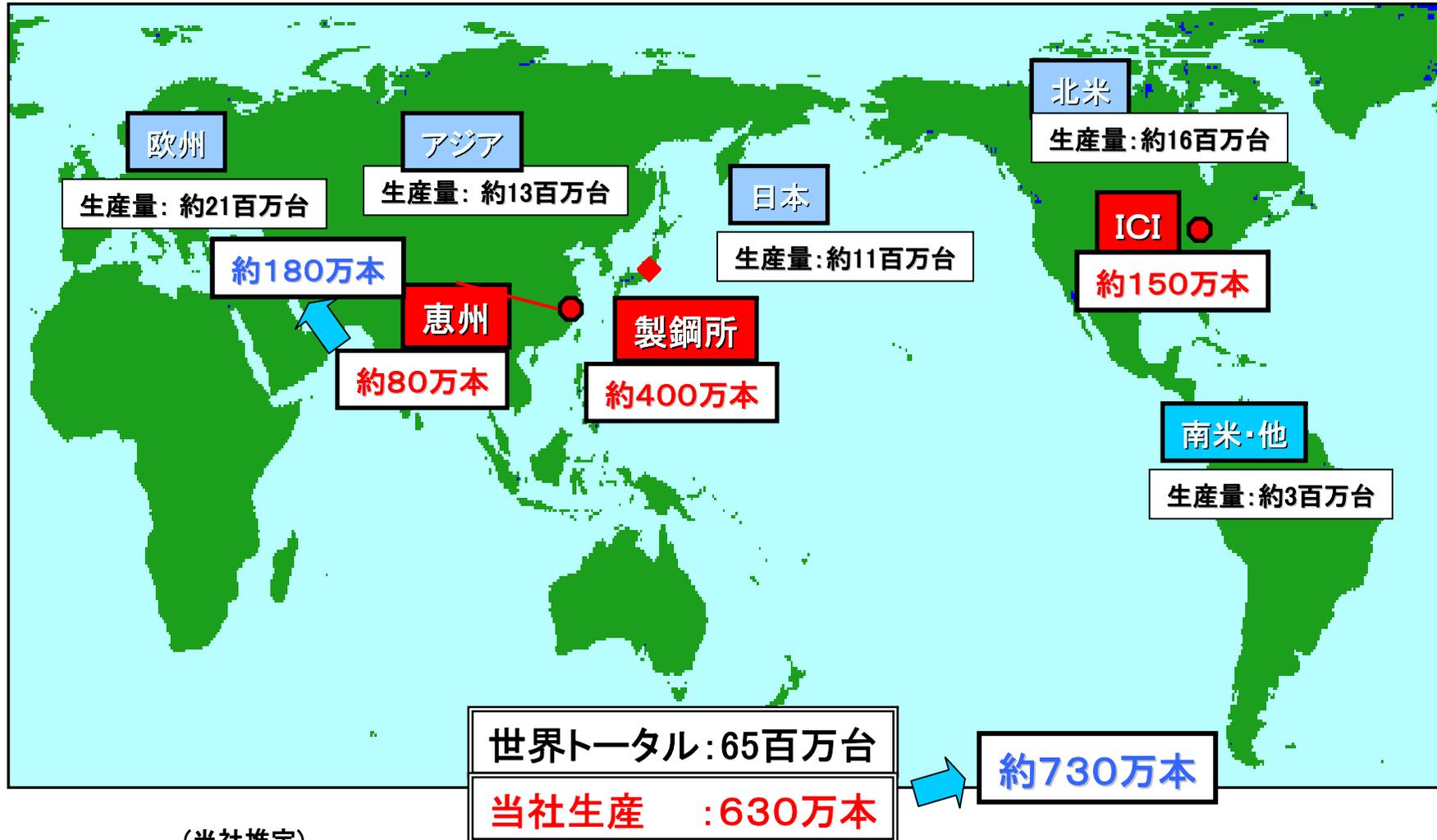


●世界初
鋼板摺動性評価
(Dr. STAMP)



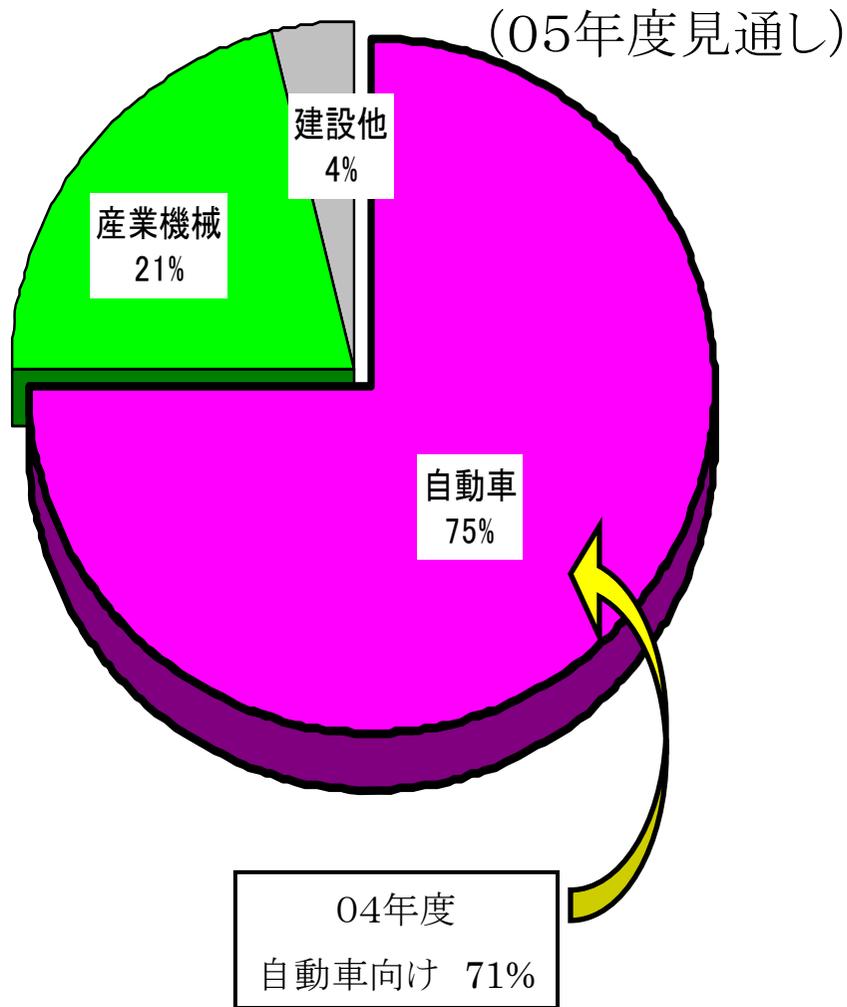
クランクシャフト

世界の自動車生産と当社のクランクシャフト事業

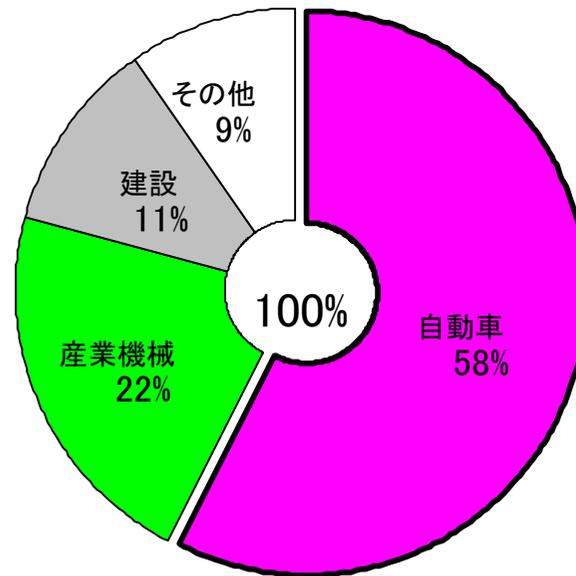


特殊鋼 棒鋼、線材

住友金属小倉の需要分野別内訳



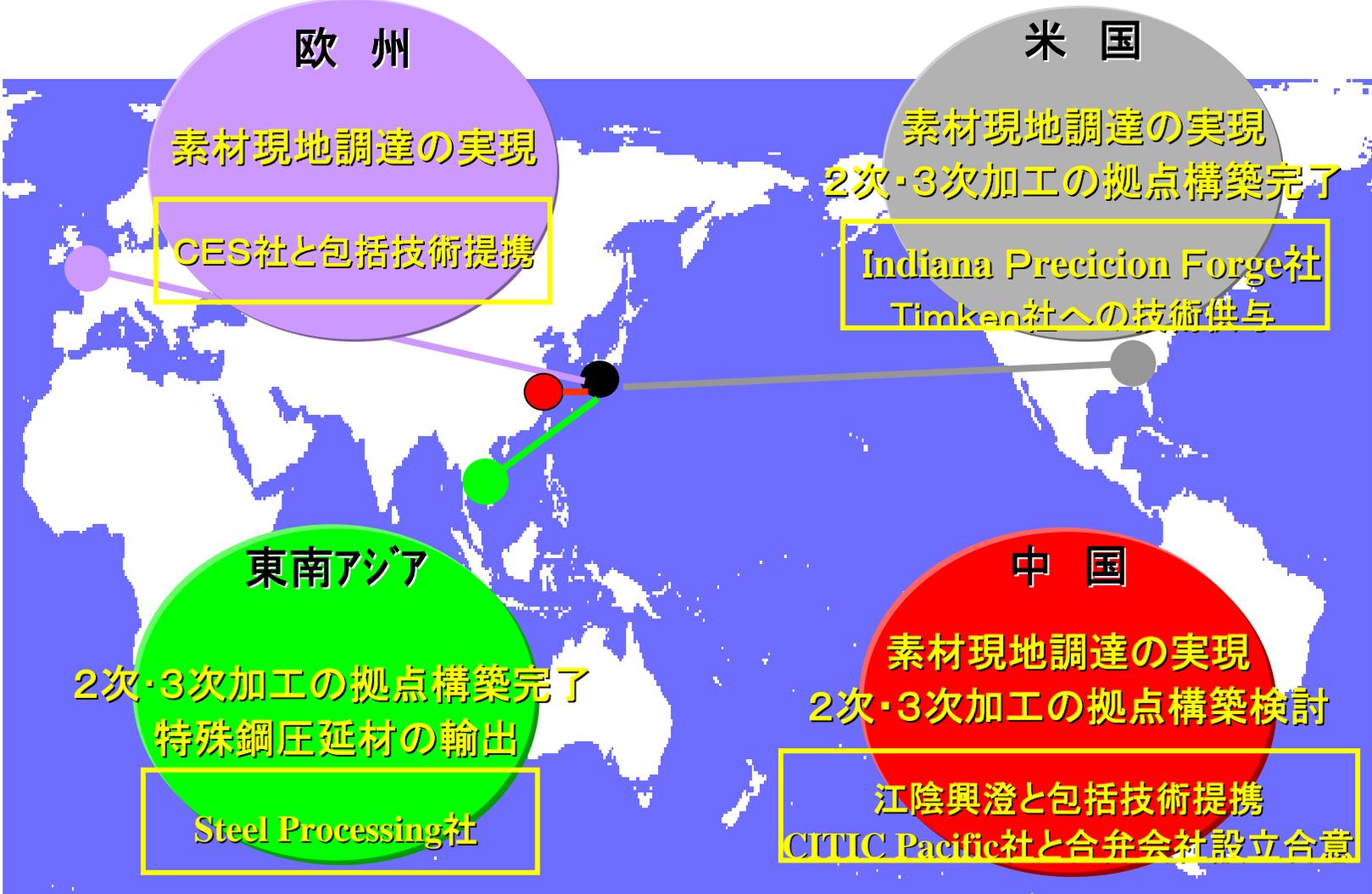
全国特殊鋼国内の需要分野別構成比(%)
(04年度)



特殊鋼月報より住友金属小倉推定

4極グローバル展開

特殊鋼 棒鋼、線材



エネルギー・自動車分野向けの主な供給対応

		投資金額	稼動時期	品種・数量規模	
				品種	規模
国内	鹿島製鉄所 ・溶融亜鉛めっき鋼板設備新設 ・連続式酸洗設備新設	180億円 70億円	06年秋頃 06年夏頃	溶融亜鉛めっき 酸洗鋼板	30万T／年 150万T／年
	和歌山製鉄所冷間製管工場の光輝焼鈍炉新設	3億円	05年1月	高級ボイラー管 高級メカニカル鋼管	8,000T／年
	特殊管事業所の熱処理炉等精整設備増強	5億円	06年1月	ステンレス系ボイラー チューブ	2,000~3,000T／年
	(株)住友金属小倉 ・特殊鋼棒鋼検査・整備ライン増設 ・線材工場圧延サイズの拡大	15億円 3億円	05年10月 05年10月	特殊鋼棒鋼 バーインコイル	8,000T／月 4,000T／月
海外	惠州住金鍛造有限公司 <住友金属51%、住友商事15%、TKA34%>	30億円	08年	自動車用クランクシャフト	100万本／年
	広州友日汽車配件有限公司 <住友鋼管51%、住友商事34%、新日本製鐵15%>	9億円	05年1月	自動車用メカニカル鋼管	1,000~1,500T／月
	輪泰科斯(広州)汽車零配件有限公司 <リンテックス80%、メタルワン20%>	16億円	06年初	自動車用スチールホイール	230万本／年